

柏市男女共同参画推進計画（後期）報告書

－ 平成25年度 実績報告 －

柏 市

柏市男女共同参画推進計画の推進状況について
基本課題Ⅰ～Ⅵの平成２５年度の進行状況・実績を報告いたします。

平成２６年１０月

目 次

	P
基本課題Ⅰ 人権	1
目標１ 男女の人権を尊重するための環境づくり	
目標２ 女性の生涯を通じた健康支援	
基本課題Ⅱ 教育・学習	10
目標３ 男女平等の視点に立った意識改革と社会制度・慣行の見直し	
目標４ あらゆる場での男女平等教育・生涯学習の推進	
基本課題Ⅲ 家庭・地域	18
目標５ 男女が共に参画する家庭・地域づくり	
目標６ 男女が安心して子育てできる環境づくり	
目標７ 高齢者・障害者への社会的支援	
基本課題Ⅳ 就労	25
目標８ 職場における男女平等の推進	
目標９ 女性の職業能力の開発と就労機会の拡大	
目標１０ 男女が職業生活と家庭生活を両立できる環境づくり	
基本課題Ⅴ 社会参画	31
目標１１ 政策・方針決定過程への女性の積極的参画と登用促進	
目標１２ 防災・災害復興への女性の参画	
基本課題Ⅵ 推進体制	37
目標１３ 「男女共同参画推進計画」推進のための方策	

基本課題Ⅰ 人権（女性の人権及び性を尊重する）

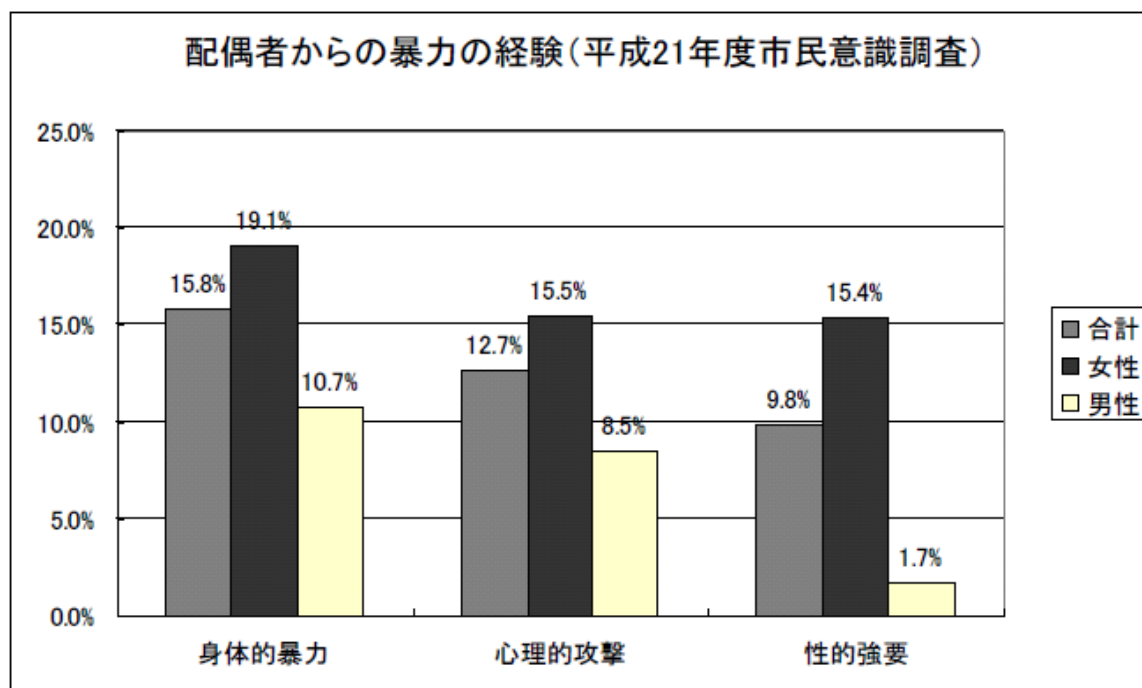
目標１ 男女の人権を尊重するための環境づくり

人権尊重の環境づくりのために、次の施策に取り組みました。

- （１）女性に対するあらゆる暴力の排除
- （２）メディアにおける女性の人権の尊重
- （３）国際社会における男女平等の推進
- （４）人権の尊重と心の健康支援

状況

女性男性とも、配偶者からの暴力の経験がある人がいることがわかっています。

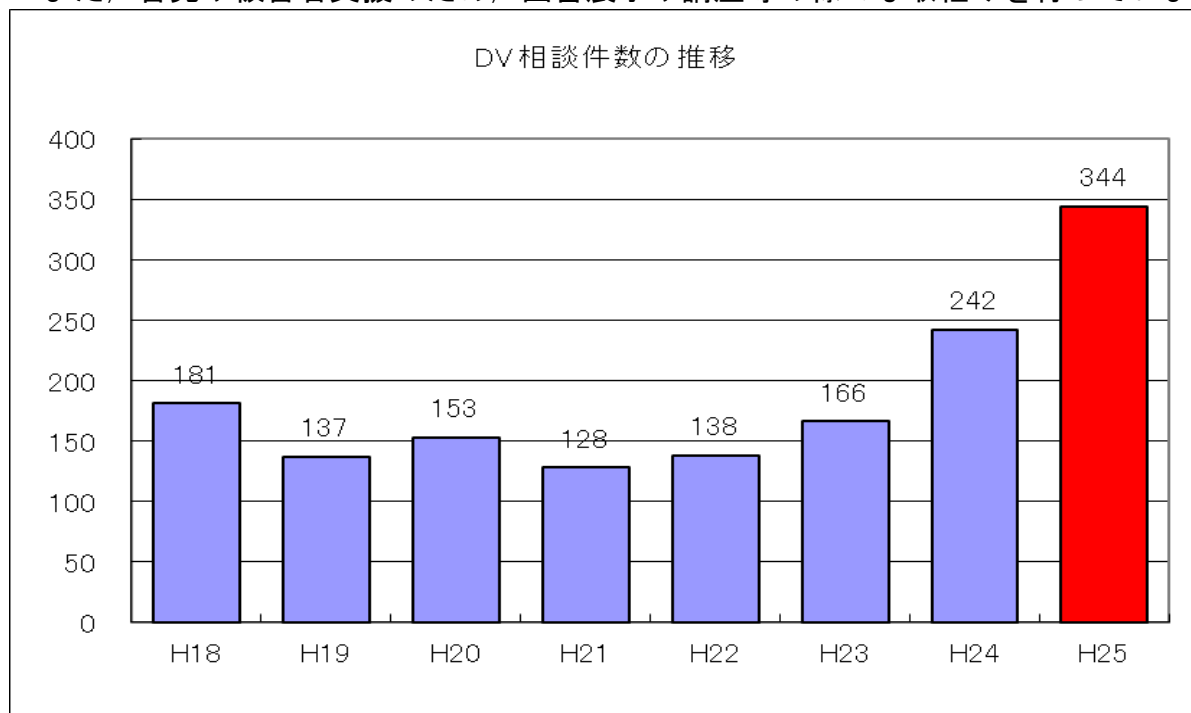


男女共同参画に関する市民意識調査
調査対象：柏市在住の20歳以上の男女
標本数：4,000人
調査方法：郵送による調査

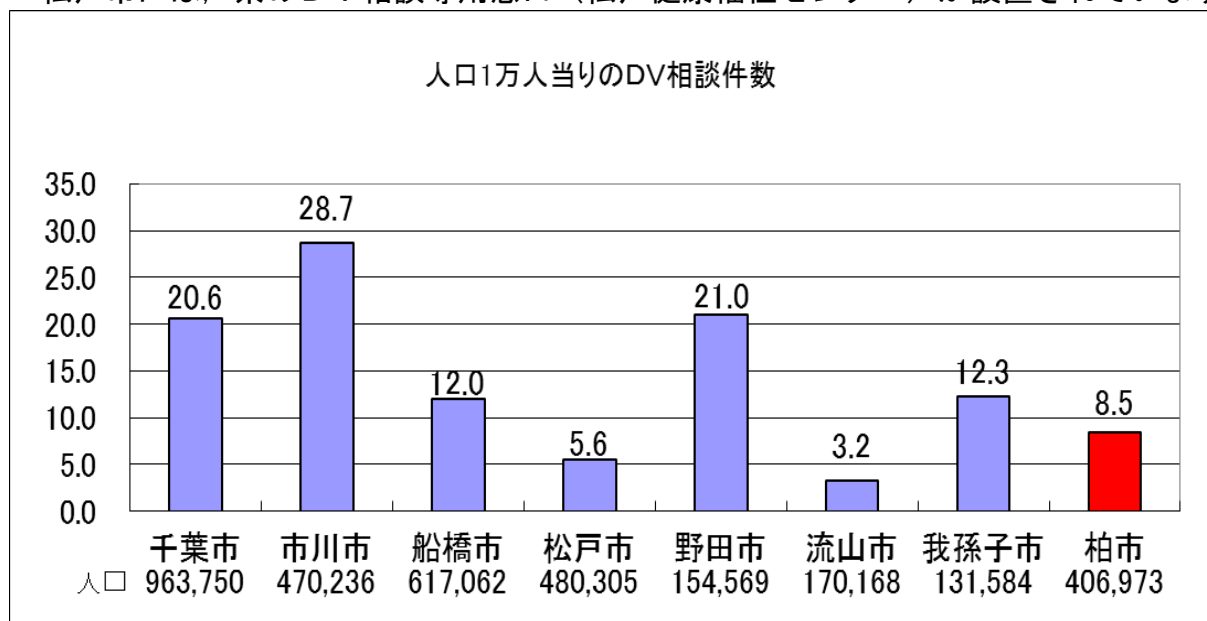
柏市においても、DV被害について相談がよせられており、平成25年度は、前年よりも100件以上増加しています。

相談にあたっては、相談者の気持ちに寄り添うことを心がけ、必要に応じて千葉県女性サポートセンターや柏警察等の関係機関と連携して対応しています。

また、啓発や被害者支援のため、図書展示や講座等の様々な取り組みを行っています。



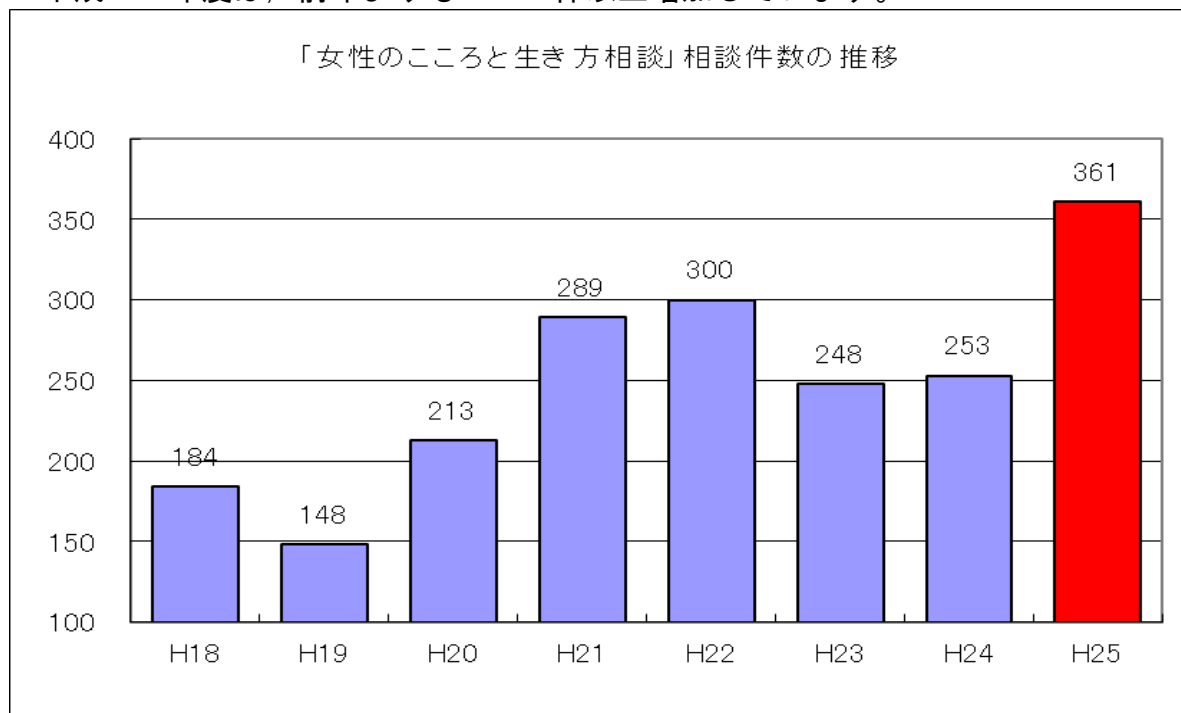
近隣市及び県内の人口上位3市における人口1万人当たりのDV相談件数は次の通りです。
 千葉市、市川市、野田市は、配偶者暴力相談支援センターを設置しています。
 松戸市には、県のDV相談専用窓口（松戸健康福祉センター）が設置されています。



※平成25年度中の相談件数と平成26年4月1日現在の人口から算出

女性のこころと生き方相談は、生き方、夫婦、家族、健康など、女性がさまざまな悩みを抱えている状況が伺えます。

平成25年度は、前年よりも100件以上増加しています。



特に取り組んだこと

1 デートDV防止プログラムのワークショップを実施しました

図書展示と併せ、「知っていますか？若者たちのカップル間に起きるデートDV」と題し、DVの被害者や加害者を生まないためのDV未然防止プログラムのワークショップを実施しました。(平成25年11月20日 図書館会議室 参加者20人) 庁内連携



講師 木野麗子さん（グループSEC 代表）による、ロールプレイングを交えての講座の様子



◇図書館本館ロビーにて企画図書展示

女性に対する暴力をなくす運動期間に合わせ、DV防止に関する展示を実施しました。
(平成25年11月8日～12月1日)

庁内連携



企画図書展示の様子

推進状況

配偶者からの暴力が人権侵害であると認識する人の割合

	平成21年度 意識調査		平成27年度目標
身体的暴力	<u>92.4%</u>	⇒	<u>100%</u>
言葉の暴力	<u>88.1%</u>	⇒	<u>100%</u>

2 全市立小中学校の先生を対象に研修を実施しました

教職員対象の指導課主催の人権尊重教育研修会『学校における人権教育と男女平等教育』を開催しました（各校1名以上参加）。柏市の施策・教育委員会や学校現場での取り組みを紹介し、女性に対する暴力を許さない社会づくりを含め、今後も継続して取り組むよう啓発を行いました。

庁内連携

3 在住外国人のための外国語による支援を行いました

◇外国人アドバイザー相談

外国人アドバイザーが、在住・在勤・在学の外国人の日常生活や市政に関する相談を行いました。現在、日本語だけでなく、英語、中国語、スペイン語、韓国・朝鮮語で対応しています。

協働推進課

◇外国人に向けた多言語メール配信

柏市で生活する外国人に向け、緊急情報や市政情報を英語、中国語、スペイン語、やさしい日本語で配信しました。

協働推進課

4 関係課と連携して自殺予防対策に取り組みました

◇相談窓口の案内や啓発講座などの自殺予防対策事業

悩み別に相談窓口を紹介したチラシを作成し、各関係機関から配布しました。

また、「心の健康講座」などの啓発講座や、無料電話相談・無料対面相談窓口を開設しました。

◇自殺予防対策フォーラム 2013「パパのための『地活』フォーラム」を開催しました（平成 25 年 9 月 21 日）



パネルディスカッションの様子



増岡弘さんによる基調講演

働き盛りの男性に多い自殺。「仕事」「家庭」だけでなく「地域活動」という第3の居場所を持つことが、心の健康に効果をもたらします。

フォーラムでは、「地域活動の楽しさ」について声優の増岡弘さんを講師に招き、「マスオ流地域参加のススメ」の講演会を開催。また、地域で活動されている方の生の声を聞くパネルディスカッションや活動紹介のアトラクションとして「柏おやじダンサーズ」のダンスを披露しました。

（アミューゼ柏 参加者 127 人）

また、男性の地域活動への参加をを喚起するため、地域活動実践者のインタビューや様々な地域活動を紹介した「パパの地活応援リーフレット」を3,000部作成し、フォーラムの他、男女共同参画シンポジウム等で配付しました。

◇自殺予防ゲートキーパー養成研修を行いました

悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげることができるゲートキーパーを養成する連続5回の研修を計2回行いました。（千葉大学 参加者 65 人）

8月には、学校の教職員向けの研修を3回行いました。（千葉大学 参加者 30 人）

(その他)

- ・相談窓口案内チラシの配布
- ・予防啓発のための駅前キャンペーン（平成26年3月18日）
- ・無料電話相談（126件）・無料カウンセリング相談（167件）
- ・自死遺族支援事業 わかちあいの会ひだまり
- ・いのちと暮らしの相談ナビ
- ・柏市自殺対策推進条例（平成23年6月27日施行 平成27年3月31日まで）
- ・自殺予防対策連絡会議設置（保健福祉総務課，保健予防課）
- ・医療従事者等研修会（平成26年1月143人，同年3月38人）
- ・広報かしわでこころの健康についての記事を連載

■柏市オフィシャルウェブサイト 自殺予防対策に関するページ

<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/061600/p007585.html>

主な取り組み

(相談)

- ・女性のこころと生き方相談（男女共同参画室）
- ・母子自立支援相談（児童育成課）
- ・人権相談（秘書広報課）
- ・法律相談（秘書広報課）
- ・市民相談（秘書広報課）
- ・職員向けにセクシュアル・ハラスメントに関する相談・苦情窓口（人事課）
- ・精神福祉相談（保健予防課）
- ・英語，中国語，スペイン語，朝鮮/韓国語による外国人相談（協働推進課）
- ・自殺対策として無料の電話相談，面談相談窓口を開設（保健福祉総務課）

(DV対策)

- ・DV関係課ネットワーク会議（男女共同参画室）
- ・母子緊急一時避難，相談支援（児童育成課）
- ・高齢者緊急一時保護を実施（福祉活動推進課）
- ・緊急一時避難相談対応（男女共同参画室）

(その他)

- ・女性，男性双方に配慮した表現の広報，出版物，ホームページ作成（秘書広報課）

今後の取り組み

- ・母子自立支援プログラム策定等事業の継続（児童育成課）
- ・就業支援講習会等事業の充実（児童育成課）
- ・自殺予防対策フォーラム開催（保健福祉総務課）
- ・自殺予防ゲートキーパー養成講座（保健福祉総務課）

目標2 女性の生涯を通じた健康支援

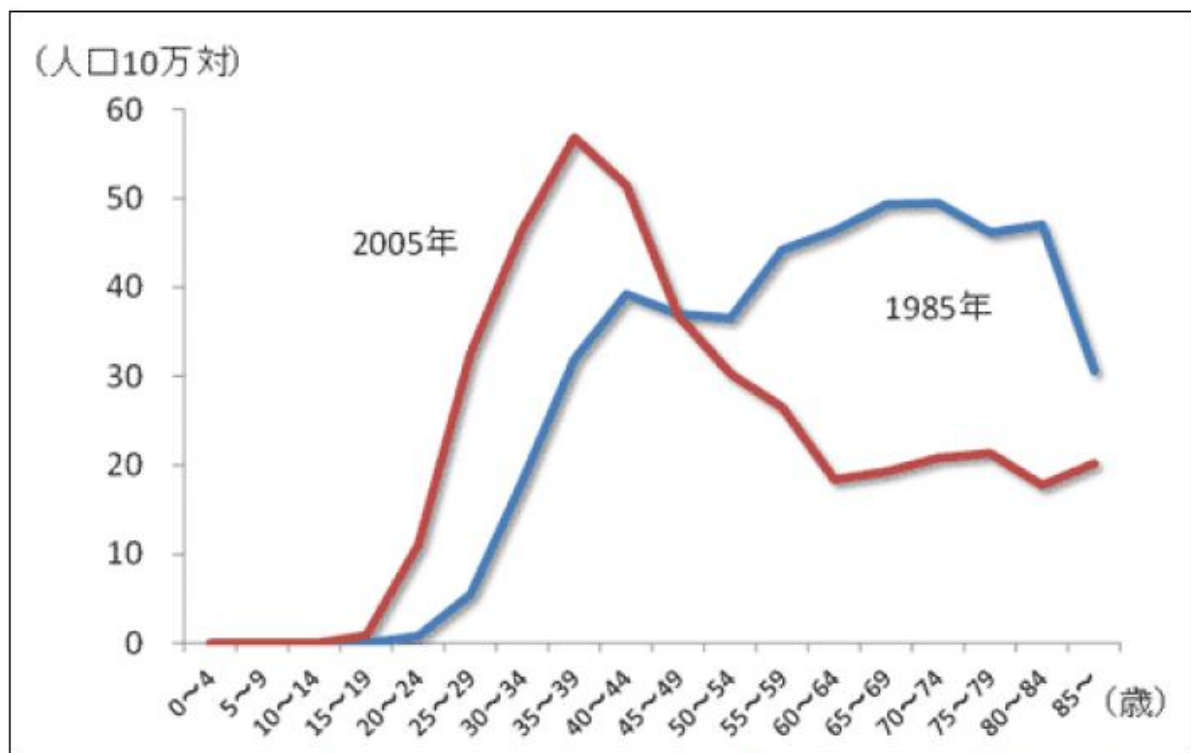
性に対する理解を進めるために、次の施策に取り組みました。

- (1) 性と生殖の健康・権利の理解と普及
- (2) 女性の健康保持と増進

状況

女性も男性も健康に自分らしく過ごせるように、男女の身体的性差を理解しながら健康づくりを目指しています。女性特有の病気の1つの子宮頸がんは、20歳、30歳代でかかる方が増えており、がん検診を呼びかけていく必要があります。

子宮頸がん（上皮内がんを含む）発生率の推移



国立がん研究センターがん対策情報センター「がん情報サービス」より

特に取り組んだこと

1 乳がん検診に関するイベントを実施しました

◇乳がん検診体験（平成 26 年 2 月 7 日 92 人）

人が多く集まるショッピングセンターで、乳がん検診体験を実施して、検診の大切さを PR しました。

乳がん予防月間事業として、平成 25 年 10 月 20 日に柏駅前で、乳がんに関する正しい知識の普及や早期発見のためにマンモグラフィ検診を受けることの重要性を呼びかけるマンモグラフィサンデーを企画しました。（荒天により中止）

成人健診課



ショッピングセンター駐車場で検診体験



2 女性のための各種健康診査を実施しました

◇「乳がん検診」「子宮がん検診」「女性の基本 35」を実施しました

※「女性の基本 35」は、35 歳の女性を対象とした柏市独自の検診です。
血液・血圧・尿・骨密度について、指定医療機関で個別検診します。

女性の健康支援として、がん検診（乳がん、子宮がん）と出産・子育て期の健康状態の確認のための検診（女性の基本 35）を実施しました。

成人健診課

3 がん検診時等に保育を実施しました

◇乳がん・子宮がん検診時、がん予防講座に保育を実施しました

子育て中の女性の健康支援の一環として、乳がん検診（12 回）子宮がん検診（5 回）時に保育を実施しました。

男女共同参画室

推進状況

「女性の基本35」の受検者数

平成 23 年度 平成 25 年度 平成 27 年度目標
3 1 2 人 ⇒ 4 8 1 人 ⇒ 5 5 0 人

乳がん検診の受検者数（後期計画新設目標）

平成 23 年度 平成 25 年度 平成 27 年度目標
23, 931 人 ⇒ 23, 810 人 ⇒ 26, 000 人

子宮がん検診の受検者数（後期計画新設目標）

平成 23 年度 平成 25 年度 平成 27 年度目標
20, 663 人 ⇒ 19, 063 人 ⇒ 27, 000 人

主な取り組み

- ・ エイズ相談やH I V等抗体検査（H I V，クラミジア，梅毒，B型肝炎，C型肝炎）実施，普及習慣や世界エイズデーに併せた啓発（保健予防課）
- ・ 思春期保健関係者会議，健康教育実施（地域健康づくり課，学校保健課）
- ・ 女性の健康診査普及啓発としてリーフレットを作成し，母子保健事業，各種イベント等で配付（成人検診課）
- ・ 家庭婦人スポーツ大会の開催（スポーツ課）

今後の取り組み

- ・ 各種健康診査（乳がん検診，子宮がん検診，女性の基本35）の継続実施，受診促進（成人健診課）
- ・ 医師会，助産師会，市民団体，P T A等との連携による，公立小・中学校で思春期保健健康教育推進（地域健康づくり課，学校保健課）
- ・ にこにこダイヤルかしわ（妊娠，出産，子育ての悩み相談）（地域健康づくり課）
- ・ ノースモッ子教室（学校保健課・地域健康づくり課）

基本課題Ⅱ 教育・学習（男女平等意識をつくる）

目標3 男女平等の視点に立った意識改革と社会制度・慣行の見直し

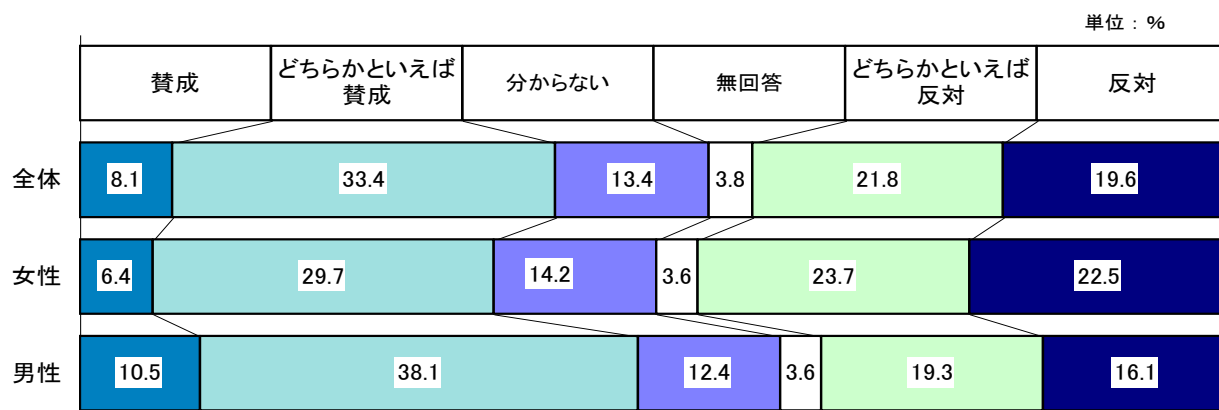
- (1) 男女平等意識をつくるための啓発活動の充実
- (2) 男女平等の視点に立つ行政職員の育成
- (3) 社会制度・慣行の見直し

状況

平成21年度の意識調査では「男は仕事，女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識について、「反対」・「賛成」がほぼ拮抗している状況です。ただし，20代の若者を対象に行った意識調査では，「強くそう思う」「少しそう思う」の合計は女性が割合が高いという結果になりました。

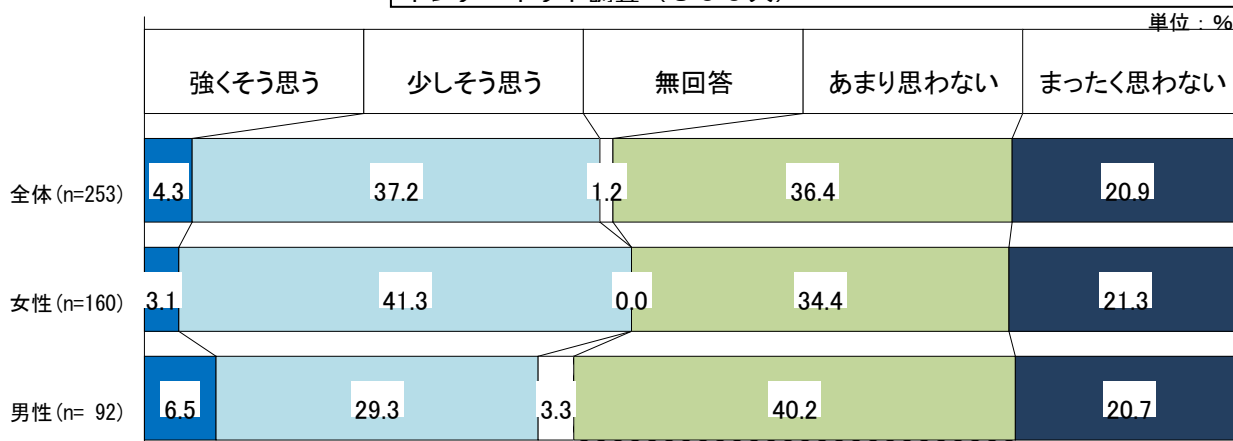
「男は仕事，女は家庭」という考え方について（平成21年度市民意識調査）

調査対象：柏市在住の20歳以上の男女
標本数：4,000人 調査方法：郵送による調査



「男は仕事，女は家庭」という考え方について（平成24年度市民意識調査）

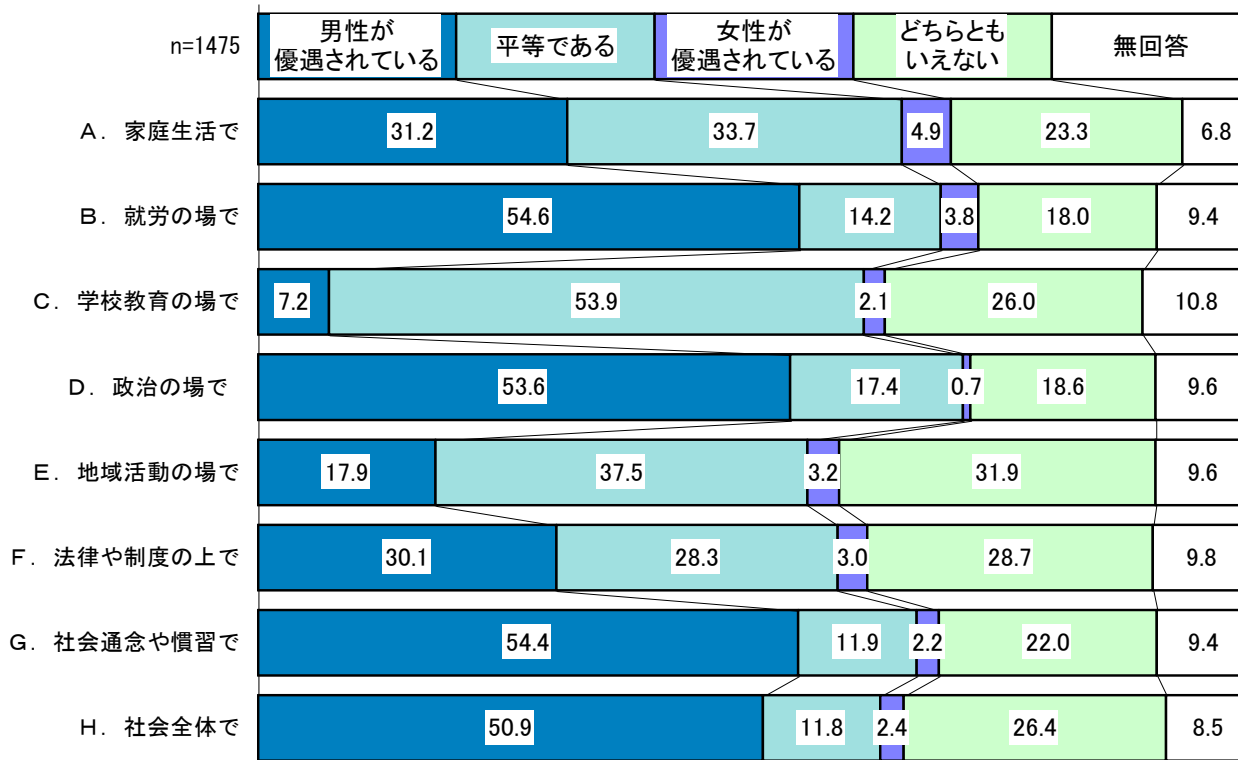
調査対象：柏市在住の20歳代の男女
標本数：1,800人
調査方法：郵送による調査（1,000人）
インターネット調査（800人）



男女の平等感について（平成２１年度市民意識調査）

調査対象：柏市在住の２０歳以上の男女
標本数：４，０００人
調査方法：郵送による調査

単位：％



もっとも平等であるとの回答が多かったのは「学校教育の場」でした。逆に「就労の場」「政治の場」「社会通念や慣習」「社会全体」で「男性が優遇されている」との回答が半数を超えました。まだまだ多くの分野で男性が優遇されていると感じられているようです。

特に取り組んだこと

1 柏市男女共同シンポジウムを開催しました

◇柏市男女共同参画シンポジウム（平成26年1月25日）

固定的な意識にとらわれず，多様な生き方を認め合い，多様な選択ができるように，男女共同参画について理解を深めるためのシンポジウムを開催しました。

公募の市民・市民団体による柏市男女共同参画シンポジウム実行委員会が企画・運営を行いました。

男女共同参画室

《内容》

第1部（参加者261人）

- ・平成25年度働く男女（ひと）と家庭に優しい企業表彰
- ・講演「行列のできる講演会－自分のために大切にしたい5つのこと」
- ・講師 弁護士 住田裕子氏



基調講演

講師 住田裕子さん



分科会の様子

第2部 分科会 5講座（参加者114人）

自分らしく生きること，男性の子育て・地域参加，労働，DV防止について

2 柏市インターネット男女共同参画センターからの情報発信・啓発を行いました

◇柏市インターネット男女共同参画推進センター

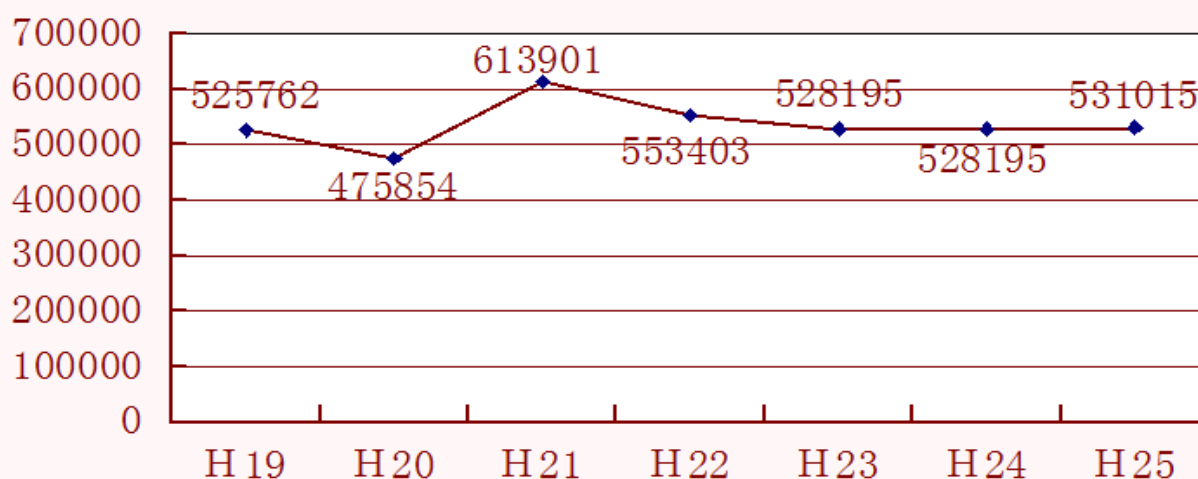
インターネット上の男女共同参画推進センターとして，毎日更新を行い，情報・学習・相談・交流等による男女平等意識の啓発に継続的に努めました。

男女共同参画室

柏市インターネット男女共同参画推進センター「参画eye」

<http://danjo.city.kashiwa.lg.jp>

参画eyeアクセス件数の推移



3 男女共同参画の視点に立った人材管理を行いました

◇男女共同参画の視点に立った職員の採用，登用，育成

職員の新規採用については、性別に一切とらわれない内容で実施しました。

職務配置については、女性管理職の、より重責な職務への配置を積極的行いました。

また、職員を対象とした男女共同参画講座や、男女共同参画推進審議会、市の幹部職員からなる男女共同参画推進庁内連絡会議・幹事会を対象に男女共同参画についての講座を実施しました。

人事課・男女共同参画室

推進状況

「男は仕事，女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識を持たない人の割合

平成 21 年度意識調査

4 1 . 4 %

⇒

平成 27 年度目標

5 0 %

「社会全体において，男女が平等になっている」と感じる人の割合

平成 21 年度意識調査

1 1 . 8 %

⇒

平成 27 年度目標

2 0 . 0 %

啓発事業への若い世代（20～40 歳代）の参加割合（シンポジウム）

平成 23 年度

23%

⇒

平成 25 年度

21.9%

⇒

平成 27 年度目標

50%

主な取り組み

- ・ インターネット男女共同参画センターによる情報発信・学習情報の提供（男女共同参画室）
- ・ 情報紙の作成（男女共同参画室）
- ・ 講座の実施（男女共同参画室）

今後の取り組み

- ・ インターネット男女共同参画センターを活用した若い人向けの啓発コンテンツの検討・作成（男女共同参画室）

目標 4 あらゆる場での男女平等教育・生涯学習の推進

- (1) 家庭教育における男女平等意識の啓発
- (2) 保育園・市立幼稚園における男女平等教育の推進
- (3) 学校における男女平等教育の推進
- (4) 社会における男女平等に関する生涯学習の推進

状況

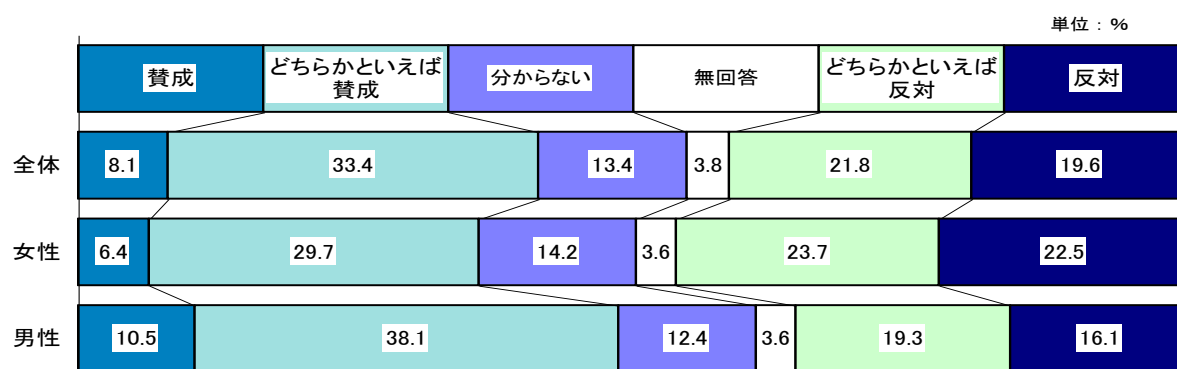
職場や家庭、地域社会においては、「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識、制度・慣行の中に存在する女性への差別や偏見などが依然として残っていることがうかがえ、平等意識は十分に浸透しているとはいえない状況です。

また、20代を対象とした市民意識調査では男性が優遇されている点として「昇格やポストの割り当て」と回答した方が最も多く、「議員の人数」が2番目に多い結果となりました。逆に女性が優遇されている点として「勤務先（アルバイト等も含む）での役割」と回答した方が最も多い結果となりました。

これは性によって割り当てられる仕事に差があるものと推測されます。

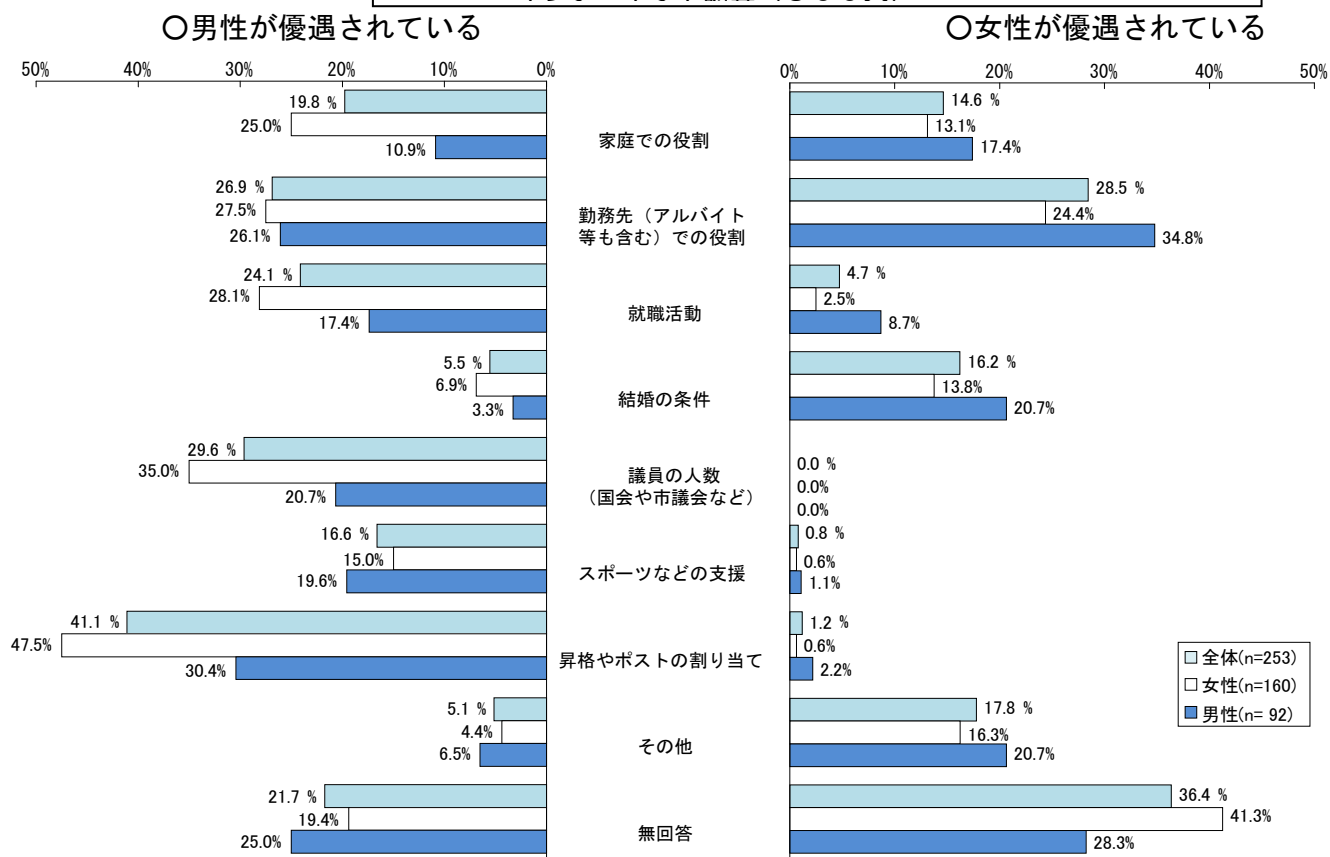
「男は仕事、女は家庭」という考え方について（平成21年度市民意識調査）

調査対象：柏市在住の20歳以上の男女
 標本数：4,000人
 調査方法：郵送による調査



性で優遇されていると感じたこと（平成24年度市民意識調査）

調査対象：柏市在住の20歳代の男女
 標本数：1,800人
 調査方法：郵送による調査（1,000人）
 インターネット調査（800人）



「議員の人数」などで「男性が優遇されている」と声が多かったが、「勤務先」では「女性が優遇されている」との声が多かったようです。単純には比較できませんが、「就労の場」で「男性が優遇されている」意見が多かった21年度の結果とは異なる結果となりました。

特に取り組んだこと

1 教職員への啓発資料を配布しました

◇啓発資料「柏市『男女共同参画をめざす教育』」を配付

教職員対象の人権尊重教育研修会において、柏市の施策・教育委員会や学校現場での取り組みを紹介し、今後も継続して取り組むよう啓発を行いました。

教育研究所

2 男女平等教育に関する学習資料の提供を行いました

◇図書館で関係資料を収集，貸出・情報提供を実施

男女共同参画週間や，女性に対する暴力をなくす運動期間，男女共同参画シンポジウムの際に図書館ロビーで企画展示を行いました。関連資料の収集や展示，企画展示に合わせたブックリストを作成し，啓発に努めました。

庁内連携

〔平成25年度図書企画展示〕

- ・6月 ワーク・ライフ・バランス
- ・11月 女性に対する暴力をなくす運動
- ・12月 男女共同参画

3 生涯学習情報の提供を行いました

◇生涯学習システム「らんらんかしわ」から学習情報を発信

生涯学習システム「らんらんかしわ」で生涯学習の情報を集約，出前講座や生活に密着した講座など，民官学の幅広い情報を提供しました。出前講座については，215件（参加者18，527人）実施しました。

生涯学習ボランティアシステム（学んだ知識や技術を活かしてボランティア活動をする人材バンクシステム）をとおして情報を提供し，127件の活動実績がありました。

生涯学習課

生涯学習システム「らんらんかしわ」
<http://ranran.city.kashiwa.lg.jp/>

推進状況

「学校教育の場において男女が平等になっている」と感じる人の割合

平成21年度意識調査

平成27年度目標

53.9%

⇒

75%

主な取り組み

- ・生涯学習の場の提供。男女共に参加しやすいよう，日曜日にも講座を開催（公民館）
- ・啓発資料「柏市『男女共同参画をめざす教育』」で，隠れたカリキュラムの点検と見直しについて例を挙げて示すとともに，「柏市男女平等教育実践事例集」の活用を呼びかけました。（教育研究所）

今後の取り組み

- ・男女共同参画の課題を取り上げた講座の実施（男女共同参画室）
- ・研修会などにおける教職員への男女平等教育の啓発（教育研究所，指導課）
- ・啓発資料「柏市『男女共同参画をめざす教育』」の内容の見直し・配付（教育研究所）

基本課題Ⅲ 家庭・地域（男女の生活者としての自立をすすめる）

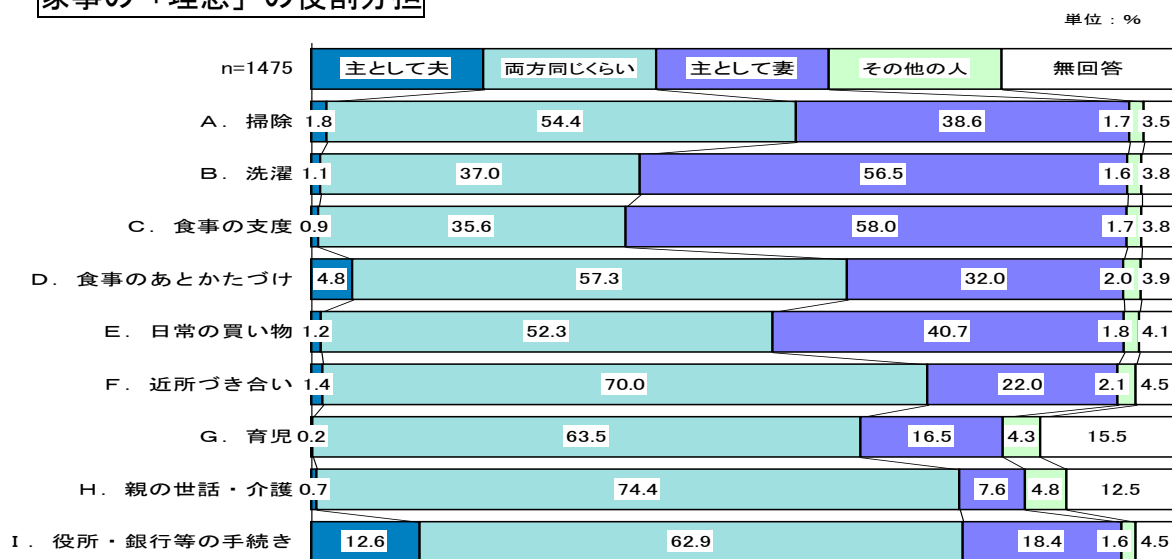
目標 5 男女が共に参画する家庭・地域づくり

（１）家庭生活・地域活動への男女共同参画の推進

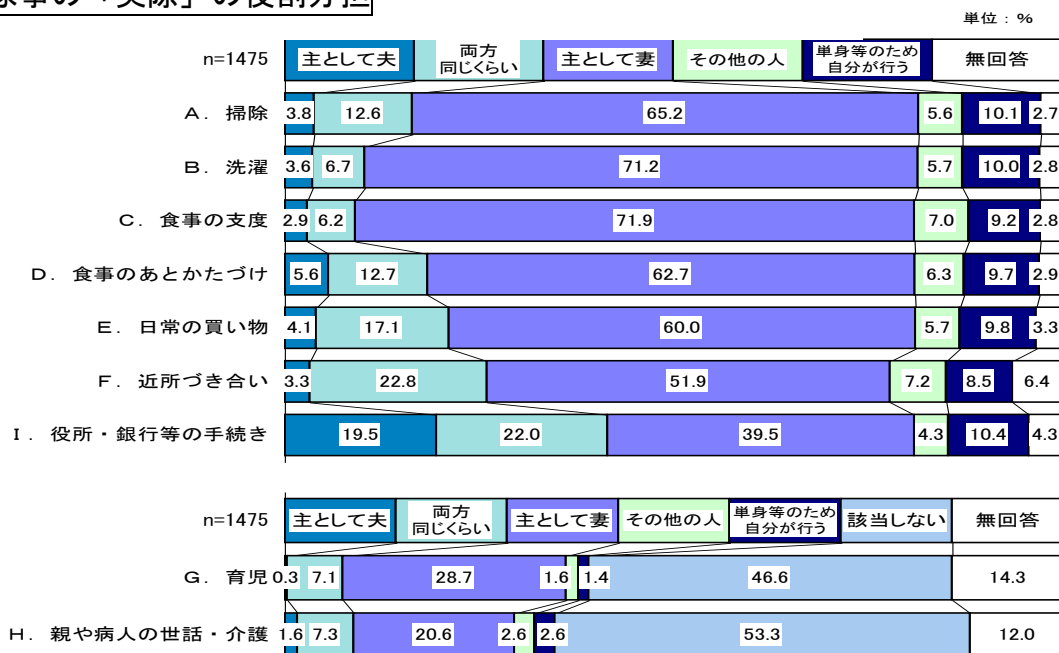
状況

日常の家事・育児・介護の分担は、夫婦で分担することを理想と考えている人が多い傾向に対し、現実には主に妻の役割になっている状況がうかがえます。

家事の「理想」の役割分担



家事の「実際」の役割分担



※「G. 育児」「H. 親や病人の世話・介護」は、「該当しない」場合があるため別に表示しています。

「柏市男女共同参画に関する市民意識調査」平成21年度

特に取り組んだこと

1 地域づくりのために市民活動事業に取り組みました

◇協働事業提案制度、柏市民公益活動補助金制度

市民団体からの提案に基づき、協働で事業を行いました。平成25年度は「松葉町近隣センターから始まる開かれた公共・繋がる公共」という、地域活性化の提案を成案化しました。

また、市民公益活動育成補助金について、10の団体への交付を決定しました。

庁内連携

2 男性の家事・育児・介護への参画のための啓発等を行いました

◇男性に向けた講座、情報提供

男女共同参画シンポジウムでは、「父親ももっと地域を楽しもう」をテーマにした分科会（10人）を行いました。

また、一部の地域包括支援センターでは男性介護者のための交流会を実施しました。

庁内連携

推進状況

「家庭生活において、男女が平等になっている」と感じる人の割合

平成21年度意識調査

33.7%

⇒

平成27年度目標

45%

ウェルカムベビー（両親学級）の参加人数

平成23年度

1,036人

⇒

平成25年度

995人

⇒

平成27年度目標

1,200人

※台風のため1回中止

主な取り組み

- ・地域活動・市民活動への参画促進

今後の取り組み

- ・家庭生活や家事分担見直しの啓発の検討（男女共同参画室）
- ・市民による地域づくりのための情報提供やイベント開催（協働推進課）

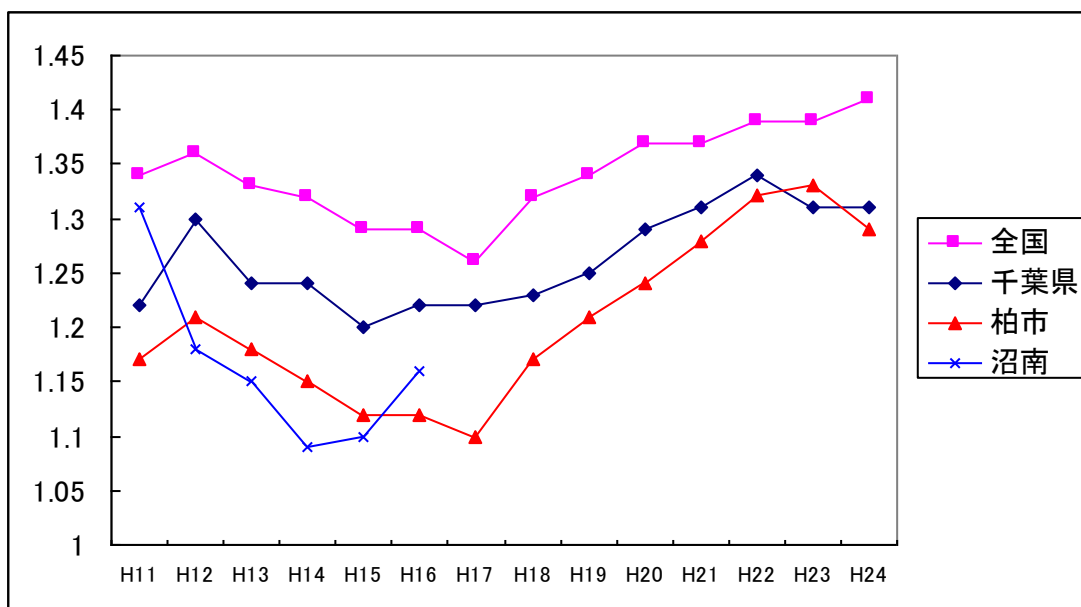
目標 6 男女が安心して子育てできる環境づくり

(1) 子育てしやすいまちづくり

状況

本市の出生率は、全国の平均を下回っている状況です。

合計特殊出生率



千葉県健康福祉部健康福祉指導課調べ

特に取り組んだこと

1 保育サービス，子育て相談など子育てしやすい環境づくりに取り組みました

◇子育て環境整備

子育てと就労が両立できるよう，こどもルームのほか，延長保育，保育ルーム，病後児保育，駅前認証保育などの保育サービスの充実を図りました。また，19カ所の地域子育て支援センターで子育てサロン，子育てサークルの育成を行いました。子育てや子どもの健康に関する相談を実施しました。

庁内連携

2 子育てに関する情報を発信しました

◇かしわこそだてハンドブック発行，ホームページからの情報発信

民間との協働によりコストの低減と質の向上を図りながら，子育て支援情報の提供を行いました。

児童育成課

推進状況

保育園の待機児童数

平成 23 年度
1 5 4 人 ⇒ 平成 25 年度
1 1 7 人 ⇒ 平成 27 年度目標
0 人

通常保育・延長保育事業

平成 23 年度
3 8 ケ所 ⇒ 平成 25 年度
4 4 ケ所 ⇒ 平成 27 年度目標
4 2 ケ所

目標
達成！

休日保育事業

平成 23 年度
2 ケ所 ⇒ 平成 25 年度
2 ケ所 ⇒ 平成 27 年度目標
4 ケ所

こどもルーム（学童保育）の整備（こどもルーム施設整備計画）

平成 23 年度
3 8 ケ所 ⇒ 平成 25 年度
4 0 ケ所 ⇒ 平成 27 年度目標
4 2 ケ所

地域子育て支援センター

平成 23 年度
1 4 ケ所 ⇒ 平成 25 年度
1 9 ケ所 ⇒ 平成 27 年度目標
1 9 ケ所

目標
達成！

一時保育実施数

平成 23 年度

12ヶ所

⇒

平成 25 年度

18ヶ所

⇒

平成 27 年度目標

22ヶ所

主な取り組み

- ・ 保育園定員枠の弾力的な拡大，私立認可保育園の整備（保育整備課）
- ・ 子育てや関連相談窓口などの情報発信（こども福祉課）
- ・ こどもルームの新設，改修による定員増（学童保育課）

今後の取り組み

- ・ 保育園，こどもルームの新設や増設による待機児童等解消に向けた取り組み
（保育整備課，学童保育課）

目標 7 高齢者・障害者への社会的支援

(1) 高齢者・障害者への社会的支援

状況

平成25年10月1日現在の柏市の住民基本台帳人口403,783人のうち、65歳以上の高齢者人口は、過去最高の90,089人となりました。

特に取り組んだこと

1 介護予防事業など高齢者や障害者の支援に努めました

◇介護予防事業、介護サービスの充実

老人福祉センターや介護予防センターの介護予防事業を充実させ、男性にも受け入れられやすいプログラムの工夫などを行いました。また、地域包括支援センターの評価事業を行うとともに研修や職種別会議等により情報共有や体制整備を行いました。

庁内連携

2 消費者トラブル防止のために講座や相談を行いました

◇消費者講座・消費者相談

高齢者が被害をうけやすい消費者トラブルの未然防止を目的に消費者講座を開催しました。また、消費者トラブルへの支援を行うために、消費生活相談員による消費者相談を行いました。

消費生活センター

推進状況

「小規模多機能型居宅介護（柏市高齢者いきいきプラン21より）」

平成23年度

6ヶ所

⇒

平成25年度

8ヶ所

⇒

平成27年度目標

11ヶ所

認知症対応型共同生活介護（柏市高齢者いきいきプラン21より）

平成23年度		平成25年度		平成27年度目標
<u>330床</u>	⇒	<u>387床</u>	⇒	<u>423床</u>
<u>22ヶ所</u>	⇒	<u>25ヶ所</u>	⇒	<u>27ヶ所</u>

認知症対応型通所介護（柏市高齢者いきいきプラン21より）

平成23年度		平成25年度		平成27年度目標
<u>3ヶ所</u>	⇒	<u>3ヶ所</u>	⇒	<u>3ヶ所</u>

目標
達成！

市内駅前広場・道路のバリアフリー（柏市バリアフリー基本構想より）

平成23年度		平成25年度		平成27年度目標
<u>10路線</u>	⇒	<u>14路線</u>	⇒	<u>38路線</u>
<u>9駅</u>	⇒	<u>10駅</u>	⇒	<u>11駅（市内全駅）</u>

主な取り組み

- ・住宅改修等の援助（高齢者支援課）
- ・介護支援サポーター，認知症サポーターの養成（福祉活動推進課）
- ・講座等，介護予防実施や介護サービスの提供（福祉活動推進課，高齢者支援課，介護基盤整備室）
- ・障害（者・児）への支援サービス実施（障害福祉課）
- ・介護予防の対象になるかたの把握（福祉活動推進課）

今後の取り組み

- ・柏市障害者虐待防止センターの取組強化（障害福祉課）

基本課題Ⅳ 就労（働く場における男女平等と女性の経済的自立を確保する）

目標 8 職場における男女平等の推進

目標 9 女性の職業能力の開発と就労機会の拡大

（１）職業能力の向上と経済的自立に向けた支援

状況

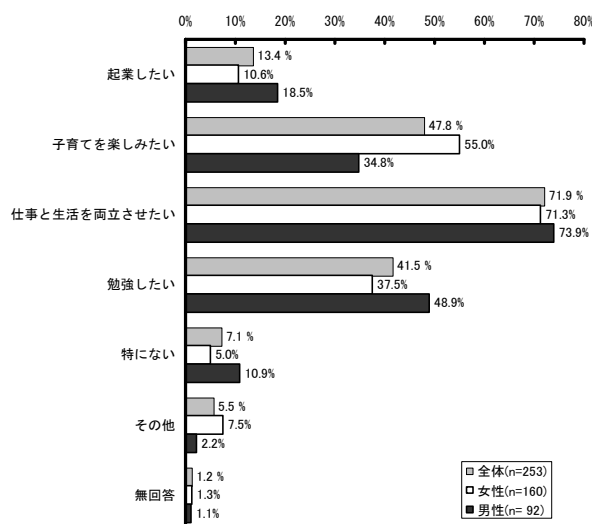
就労の場では、法整備が進んでいく一方で、雇用形態の傾向の違いや給与格差などがあり、能力活用の機会が十分でない傾向が伺えます。

また、女性は、結婚・妊娠・出産・育児・介護等のため退職せざる得ない場合や、希望する働き方で再就職できていない場合があります。20代を対象とした市民意識調査では「これからやってみたいこと」で「仕事と家庭の両立をさせたい」との回答が、「今悩んでいること」で「仕事のこと」との回答が一番多い状況が伺えました。若者にとって「仕事」が意識の中で多くを占めている状況が伺えます。

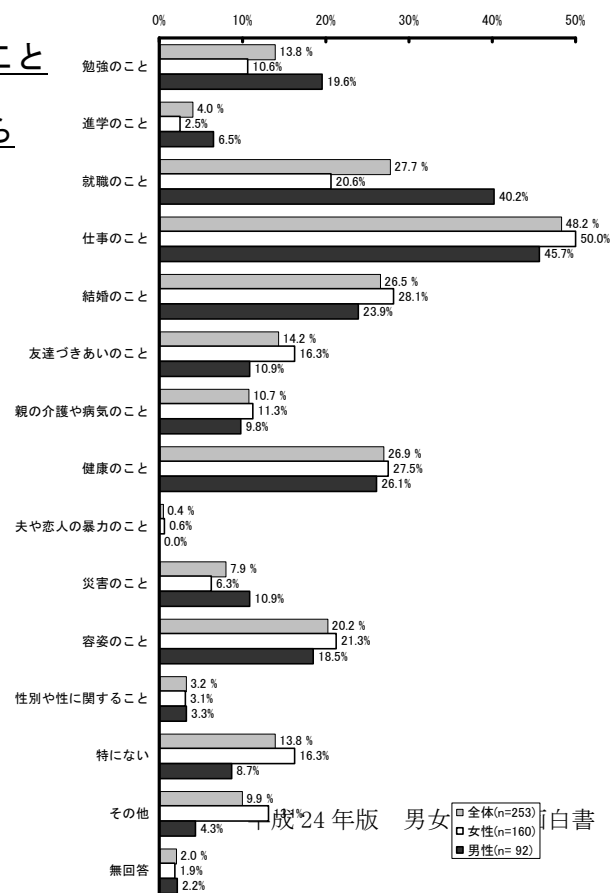
今悩んでいること

（平成24年度市民意識調査）から

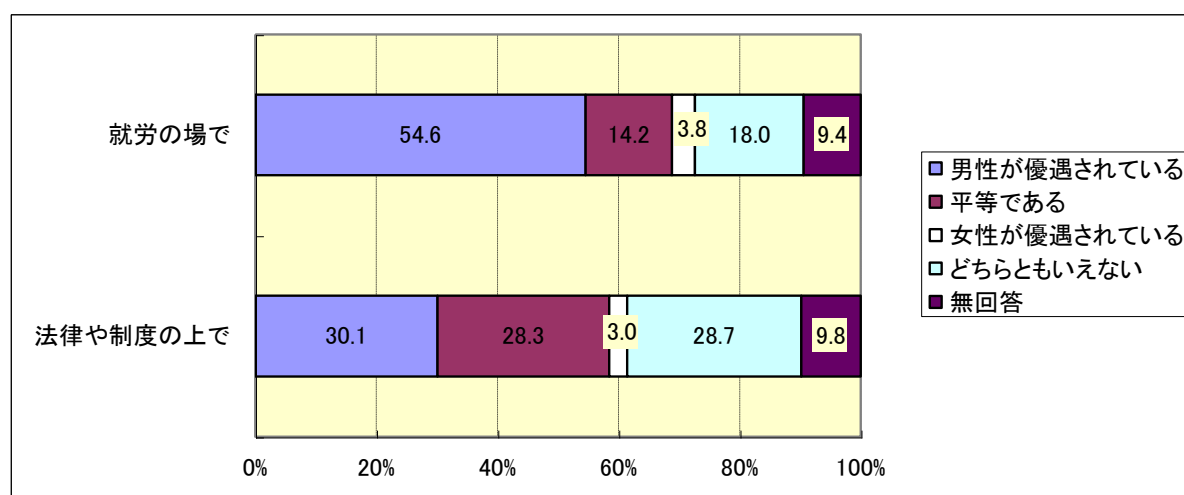
これからやってみたいこと



調査対象：柏市在住の20歳代の男女
標本数：1,800人
調査方法：郵送による調査（1,000人）
インターネット調査（800人）



分野別の男女平等感



「柏市男女共同参画に関する市民意識調査」平成21年度

女性の働き方の理想と現実

(%)

		現実の働き方							
		仕事を持たない	結婚するまで	子どもができるまで	ずっと仕事を続ける	大きくなったら再び仕事（フルタイム）を持つ	大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ	家族の介護をするときは、仕事をやめた	その他
全 体		8.3	9.4	8.2	16.1	11.7	34.5	3.3	3.4
働 き 方 の 理 想	仕事を持たない方がよい	<u>28.6</u>	14.3	7.1	14.3	14.3	0.0	7.1	0.0
	結婚するまで	14.0	<u>36.8</u>	12.3	7.0	3.5	15.8	3.5	1.8
	子どもができるまで	10.3	16.2	<u>32.4</u>	4.4	7.4	13.2	4.4	1.5
	ずっと仕事を続ける方がよい	7.1	5.4	6.3	<u>44.6</u>	9.4	20.5	0.4	3.1
	大きくなったら再び仕事（フルタイム）を持つ方がよい	8.6	9.7	7.1	9.7	<u>28.8</u>	27.7	2.6	1.9
	大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ方がよい	7.3	7.3	6.3	7.3	3.8	<u>58.7</u>	2.5	2.0
	家族の介護をするときは、仕事をやめた方がよい	6.5	3.2	6.5	6.5	9.7	12.9	<u>38.7</u>	3.2
	その他	8.4	4.8	4.8	21.7	10.8	22.9	1.2	20.5

「柏市男女共同参画に関する市民意識調査」平成21年度

※下線・網掛けのある部分が、理想どおりに働けている人の割合を示しています。

どのような働き方を理想としていても、理想とした働き方を現実にもしている人が一番多い結果となりました。ただし、その割合を見ると全体の4割程度となっています。

特に取り組んだこと

1 啓発資料の配布，相談窓口の情報提供を行いました

◇関係機関や千葉県と連携した講座の実施

労働法令，セクハラ防止，各種講座，相談窓口などの労働者に関する資料の配布を行いました。また，柏工業専門校や千葉県と連携した講座を実施しました。

商工振興課

2 農業経営への女性の参画支援を行いました

◇家族経営協定制度などのPR

家族経営協定を締結している農家より，農業経営計画の共同申請があり，配偶者・後継者がそれぞれ認定農業者となりました。平成25年度末までの認定農業者106名のうち6名が女性農業者となっています。

庁内連携

推進状況

「就労の場において，男女が平等になっている」と感じる人の割合

平成21年度意識調査

14.2%

⇒

平成27年度目標

20%

家族経営協定の締結家族数

平成23年度

18件

⇒

平成25年度

20件

⇒

平成27年度目標

20件

目標
達成！

※家族経営協定とは，家族農業経営にたずさわる各世帯員が意欲とやり甲斐を持って経営に参画できる魅力的な農業経営を目指し，経営方針や役割分担，家族みんなが働きやすい就業環境などについて，家族間の十分な話し合いに基づき取り決めるものです。

主な取り組み

- ・女性農業者の活動等の紹介，千葉県農業委員の会や農山漁村いきいきフォーラムへの参加（農政課・農業委員会事務局）
- ・就職希望者への支援として講座や就職相談会を実施（商工振興課）

今後の取り組み

- ・労働に関する情報発信や講座実施（庁内連携）
- ・女性農業委員の登用への働きかけ（庁内連携）
- ・柏市農業女性連合会と連携した家族経営協定のPR（庁内連携）

目標 10 男女が職業生活と家庭生活を両立できる環境づくり

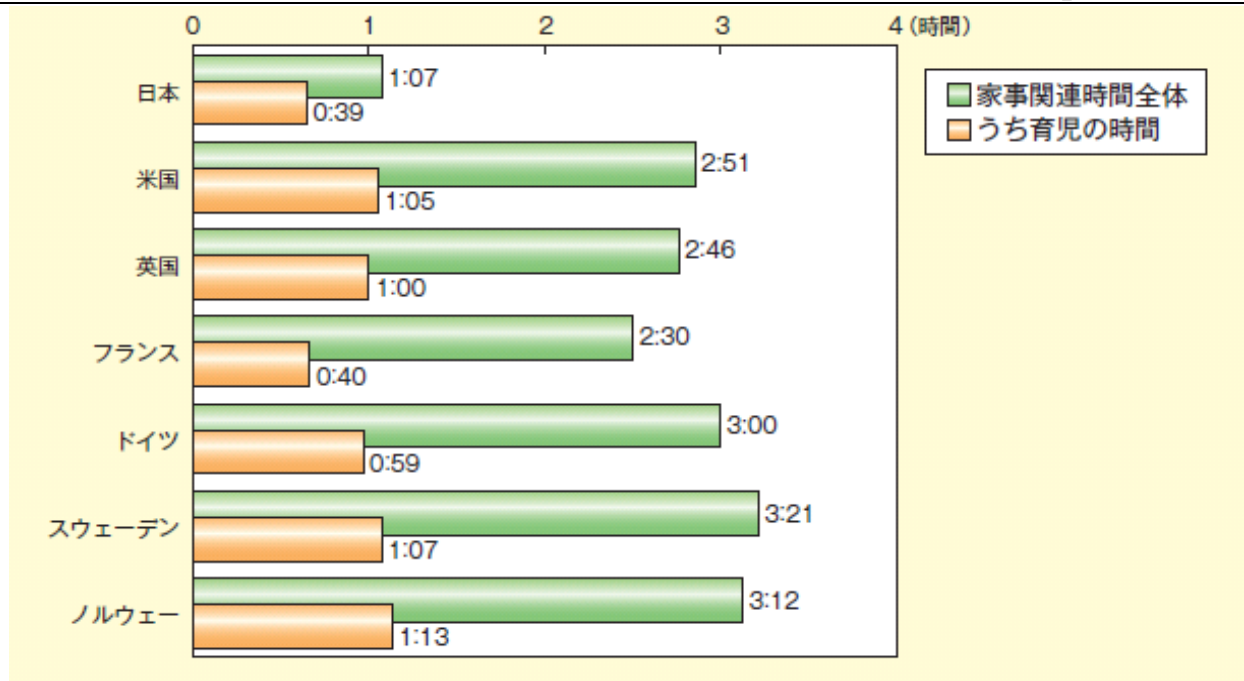
- (1) 家庭生活・地域活動への男女共同参画の推進
- (2) 保育サービスの充実
- (3) 介護が必要な家庭への支援
- (4) 女性が働き続けられるための調査・研究

状況

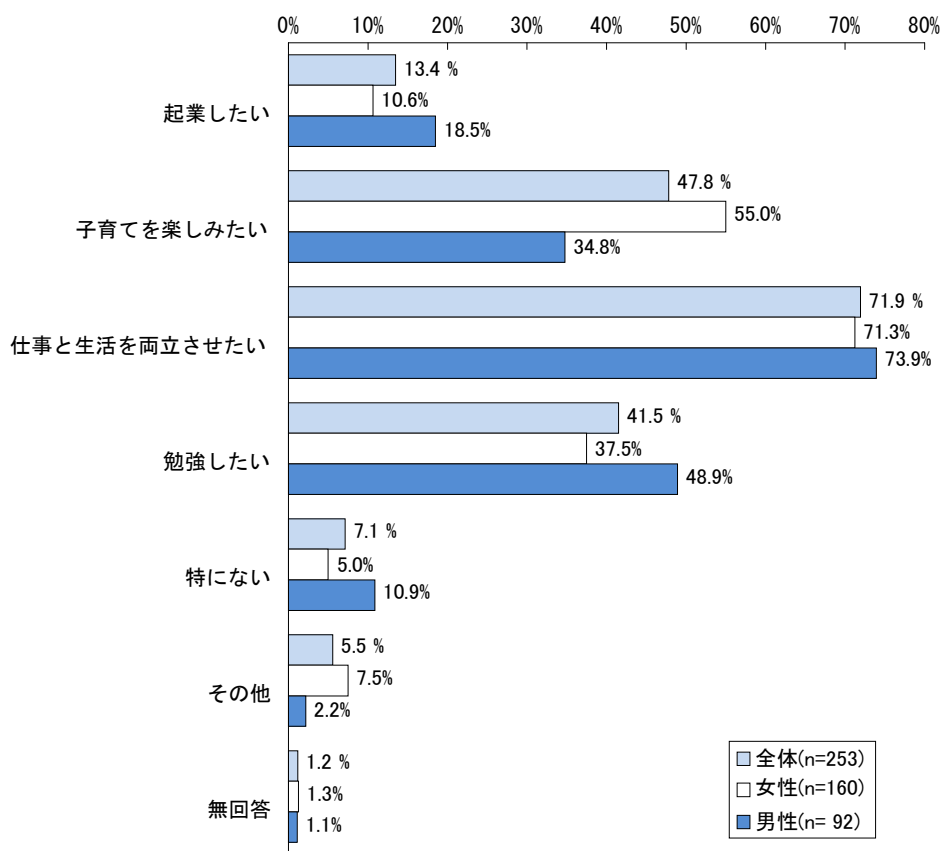
我が国では、6歳未満の子どもを持つ夫の家事・育児関連に費やす時間（1日当たり）は67分と他の先進国と比較して低水準にとどまっています。

20代を対象にした市民意識調査では、男女共に仕事と家庭の両立をやってみたいと思う人が多いことがわかりました。

6歳未満児のいる夫の家事・育児関連時間（1日あたり）総務省「社会生活基本調査」（平成23年）



これからやってみたいこと（平成24年度市民意識調査）



調査対象：柏市在住の20歳代の男女
 標本数：1,800人
 調査方法：郵送による調査（1,000人）
 インターネット調査（800人）

特に取り組んだこと

1 働く男女（ひと）と家庭に優しい企業表彰を行いました

◇働く男女（ひと）と家庭に優しい企業表彰式（平成26年1月25日）

誰もが健康で心豊かな生活ができるよう、仕事と家庭の両立などを積極的に支援している企業の表彰を行いました。



男女共同参画シンポジウムでの表彰式

推進状況

育児休業・介護休業をとりやすいと感じる人の割合

育児休業

平成 21 年度

意識調査

29.6%

⇒

平成 27 年度目標

40%

介護休業

平成 21 年度

意識調査

23.4%

⇒

平成 27 年度目標

30%

「ワーク・ライフ・バランス」を知っている人の割合（後期計画新設目標）

平成 23 年度

20.8%

⇒

平成 27 年度目標

50%

※平成 23 年度は内閣府「仕事と生活の調和の実現に影響を与える生活環境に関する意識調査」結果の数値です。

主な取り組み

- ・パンフレットやHPによる、仕事と生活の両立に関する情報発信（庁内連携）
- ・保育サービスや介護サービスの提供による支援（庁内連携）

今後の取り組み

- ・講座や情報発信による、企業や市民へのワーク・ライフ・バランスの啓発（庁内連携）

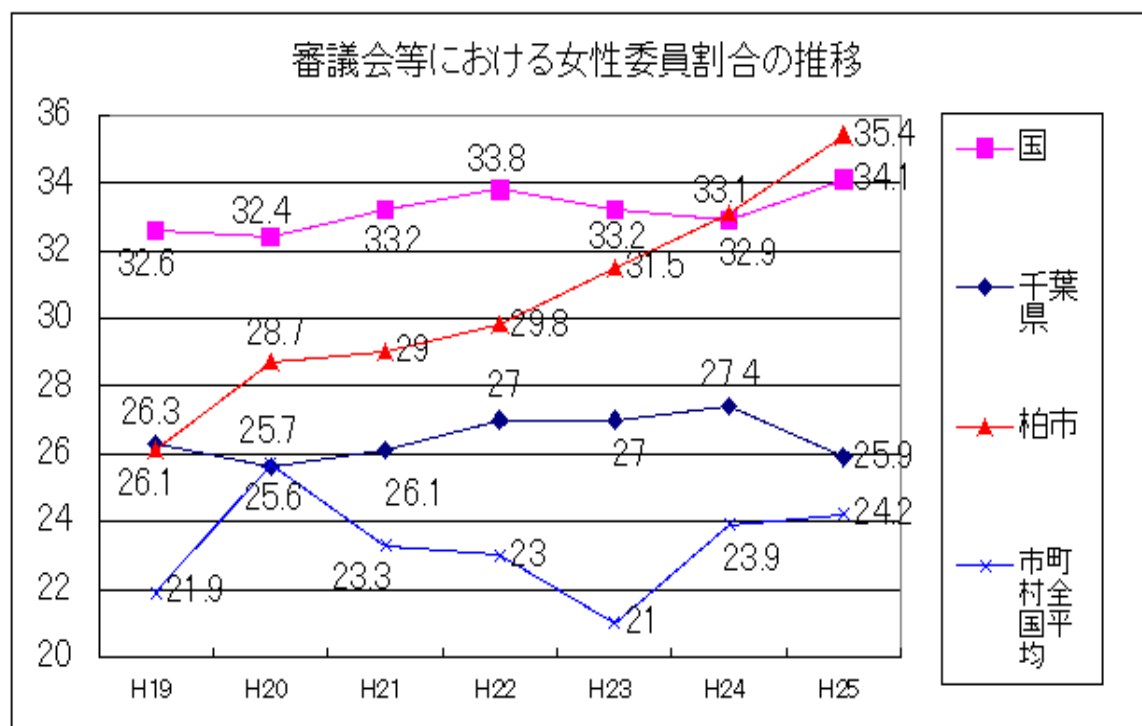
基本課題Ⅴ 社会参画（政策・方針決定の場へ男女が平等に参画する）

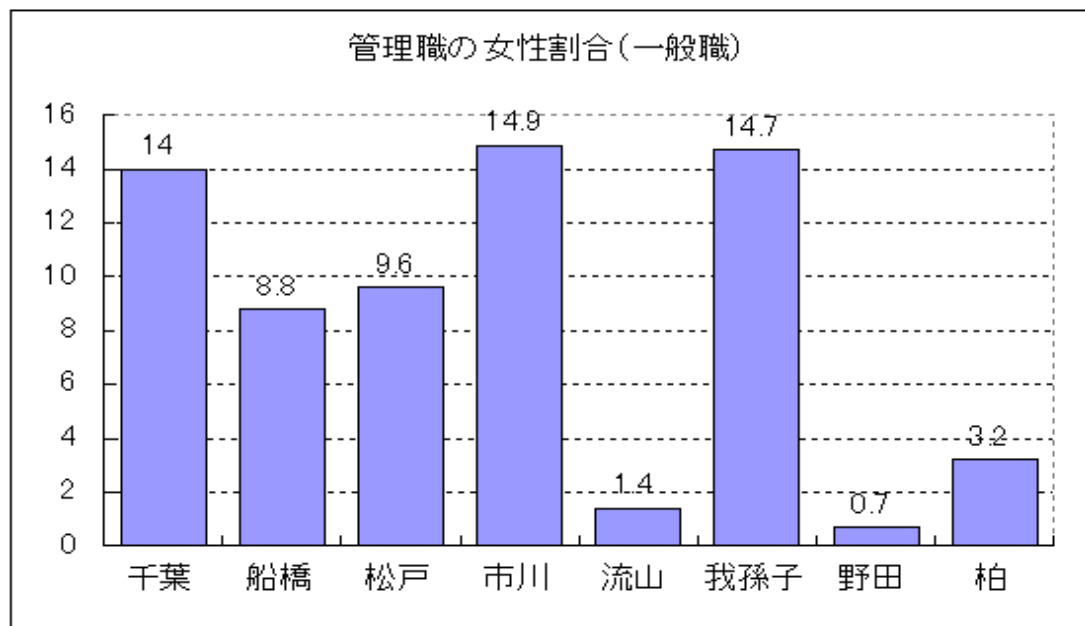
目標 11 政策・方針決定過程への女性の積極的参画と登用促進

- （１）政策・方針決定の場への女性の登用促進
- （２）女性のエンパワーメントに向けての環境整備

状況

市の政策・方針決定にかかわる審議会等委員は、男性委員が多い状況です。より暮らしやすいまちになるように、さまざまな分野で女性男性双方の幅広い意見を取り入れられることを目指しています。





平成 25 年 4 月 1 日現在（千葉県男女共同参画白書より作成）

特に取り組んだこと

1 審議会改選の際に女性委員も登用するように努めました

◇審議会委員改選の際の男女比の配慮

さまざまな分野で幅広い意見を取り入れ、より暮らしやすいまちになるように、各審議会委員に女性男性双方が登用され、構成割合についても配慮するように、企画部長と地域づくり推進部長が改選時期に応じて、担当課に依頼を行いました。

庁内連携

◇審議会開催時の保育の提供

審議会等への子育て世代の女性の参画を促すため、審議会開催時の保育の提供を行いました。さらに新たに審議会の委員を公募する際にも保育ありで募集をかけ、子育て世代の女性の参画を促しています。

市では、市政に関する意見を伺い、計画の策定や提言等に反映させるため、審議会など市の付属機関への市民公募委員の参加を進めています。このたび、柏市公設総合地方卸売市場運営審議会の委員を募集します。選考は、これまでの経験・経歴やレポートの内容をもとに行います。

子育て中でも
参加できます

審議会等の
委員を募集

広報かしわ9月15日号より 子育て中も参画できる旨を大きくアピール

推進状況

「政治の場において、男女が平等になっている」と感じる人の割合

平成 21 年度意識調査

17.4%

⇒

平成 27 年度目標

25%

審議会等における女性委員の割合

平成 23 年度

30.9%

⇒

平成 25 年度

35.4%

⇒

平成 27 年度目標

35%

目標
達成!

市職員における女性管理職の割合

平成 23 年度

2.4%

⇒

平成 25 年度

2.6%

⇒

平成 27 年度目標

3%

町会・自治会長における女性の割合

平成 23 年度

5.9%

⇒

平成 25 年度

6.6%

⇒

平成 27 年度目標

7%

主な取り組み

- ・ 審議会担当課への公募及び性別配慮の働きかけ（行政改革推進課，男女共同参画室）
- ・ 女性職員の管理職への積極的登用（人事課）
- ・ 女性消防職員の積極的採用・登用（消防局総務課）
- ・ 女性の能力活用等の啓発（男女共同参画室）
- ・ 町会，自治会等役員への女性の参画促進（地域支援課）

今後の取り組み

- ・ 引き続き，子育て中のかたが参画しやすいように全ての審議会で会議の際に保育を実施する
- ・ 改選時期に合わせて女性男性双方が登用されるよう各担当課への依頼を継続
- ・ 管理職昇任選考対象女性職員への受験働きかけや育成

目標 12 防災・災害復興への女性の参画

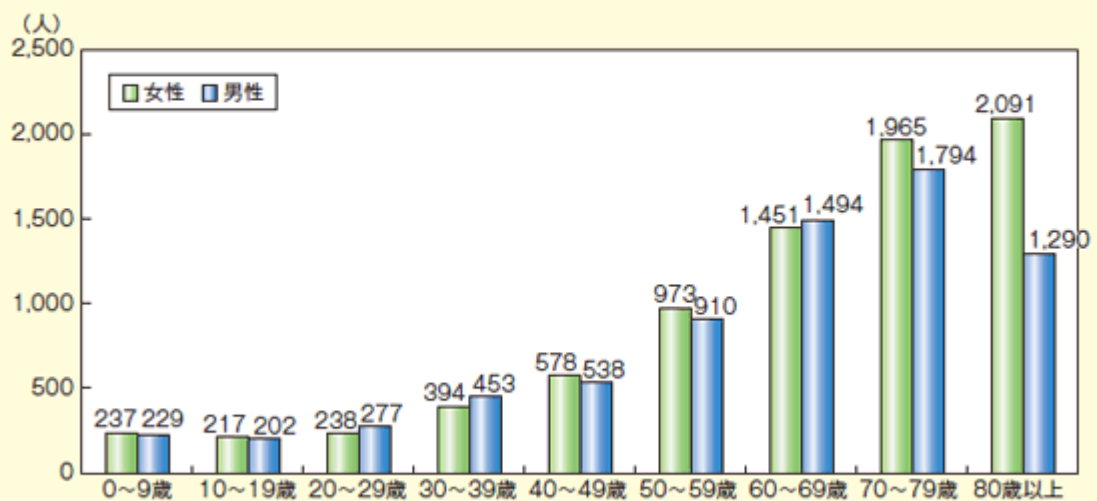
- (1) 防災に関する政策・方針決定過程への女性の参画
- (2) 男女共同参画の視点に立った地域防災計画等の見直し
- (3) 地域における防災意識の向上および女性リーダーの育成

状況

平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、多くのかたが犠牲になりました。被災地・被災者の支援を行うと共に、今後、起こりうる災害への対策を男女共同参画の視点からも改めて見直していく必要があります。

- ・東日本大震災の犠牲者は、平成24年3月11日時点で15,786人で、高齢者は男女別の死者数は女性が多い状況です。
- ・防災対策は、高齢者や障害者、外国人、子育て中の人などへの支援のほか、被災後は飲酒量の増加や不眠、こころの状態の変化など、健康への支援が必要であることなどの認識も必要になります。

第1-特-1図 東日本大震災の男女別・年齢階層別死者数（岩手県・宮城県・福島県）



(備考) 1. 警察庁「東北地方太平洋沖地震による死者の死因等について【23.3.11～24.3.11】」より作成。
2. 性別不詳、年齢不詳は除く。

平成24年版 男女共同参画白書

特に取り組んだこと

1 男女共同参画の視点に配慮した防災対策

◇防災会議等への女性の登用促進

防災会議への女性の登用促進を図ったが、平成25年度中は現状維持（6名／43名）にとどまった。

防災安全課

推進状況

防災推進員における女性の割合

平成23年度	⇒	平成25年度	⇒	平成27年度目標
<u>8.6%</u>		<u>6.9%</u>		<u>10%</u>

主な取り組み

- ・ 男女共同参画の視点で考える防災の啓発（庁内連携）
- ・ 男女双方の職員を配置した東日本大震災避難者の支援の実施（協働推進課）

今後の取り組み

- ・ 防災講習会等を年に70回以上実施を目標に、女性の積極的な参加を呼びかける
(防災安全課)

基本課題Ⅵ 推進体制（「柏市男女共同参画推進計画」を積極的にすすめる）

目標 13 「男女共同参画推進計画」推進のための方策

- （１）庁内推進体制の整備・活用
- （２）男女共同参画推進センターの設置
- （３）計画の進行管理
- （４）関係機関との連携
- （５）男女共同参画都市の宣言
- （６）男女共同参画条例に関する情報収集
- （７）次期計画の検討

状況

男女共同参画の推進は、行政の各分野に関わりがあり、柏市男女共同参画推進計画に基き、全庁的に取り組んでいます。計画への取り組み促進や、今後の平成28年度以降の計画の検討のため、庁内への意識啓発や情報共有を更に行っていきます。

また、市全体の男女共同参画の推進のために、柏市インターネット男女共同参画推進センター「参画e y e」の充実を進めています。

特に取り組んだこと

1 庁内推進体制の活用を行っています

◇庁内連絡会議及び幹事への情報提供

計画推進のため、柏市男女共同参画推進庁内連絡会議・幹事会の委員に個別に計画の配付や、情報紙の配付を行いました。また、平成25年度も男女共同参画に関する研修を行いました。

男女共同参画室

2 柏市インターネット男女共同参画推進センターの充実を進めています

◇柏市インターネット男女共同参画推進センター「参画e y e」

男女共同参画推進のための拠点として、インターネット上に、センターを設置しています。相談・情報・交流・学習等の機能や情報の更新を毎日行いました。市民と協働で行う事業や講座などへの参加申込や、問い合わせなども行える機能をつけていることで、さまざまな時間、場所から利用できるようになっています。

男女共同参画室

推進状況

柏市インターネット男女共同参画推進センターへのアクセス数

平成 23 年度 平成 25 年度 平成 27 年度目標
553,403 件 ⇒ 531,015 件 ⇒ 660,000 件

主な取り組み

- ・ 後期計画期間の進行状況報告書の作成・公表（男女共同参画室）
- ・ 審議会や各施策における市民や市民団体との連携（庁内連携）

今後の取り組み

- ・ 柏市男女共同参画推進審議会への関係部署職員の出席
- ・ 庁内連絡会議の委員への研修会の実施（男女共同参画室）
- ・ 柏市インターネット男女共同参画推進センターの新しい企画等の検討（男女共同参画室）
- ・ 次期計画策定に向けた市民意識調査及び職員意識調査の実施（男女共同参画室）